

平成28年度事業計画

今日、日本は世界の冠たる長寿国で高齢化が最も進んだ国となり、「団塊の世代」が65歳に達したこともあって、総人口に65歳以上の高齢者が占める割合は25%と、実に4人に1人となっています。今後の推計によると、高齢化率は上昇を続け、平成47年には33.4%となり、3人に1人が高齢者になると見込まれています。

平成27年度の当センターの状況については、「団塊の世代」が引退過程を迎え、減少傾向にあった会員数はわずかですが増加傾向にあります。また、就業状況についても平成28年1月現在、日頃における会員一人ひとりの就業に対する「熱意」と「丁寧」な作業の積み重ねによって、派遣による就業を含め、対前年度比で受注件数は95%と減少したものの、契約金額は104%と増加となっています。

一方、シルバー人材センターは、国や地方自治体の補助金や就業による事務費などにより運営を行っていますが、平成27年度から国のシルバー事業補助金の見直しにより減額となり、その補填として「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」（通称 サポート事業）補助金が新たに設けられました。この補助金の算定基礎が就業実績によって変動することから、サポート事業を積極的に推進していく必要があります。

そのためにも、多様なニーズに応えられる「会員の拡大」が急務であり、必須の課題となっています。

超高齢社会において、臨時的、短期的な就業を通し、生きがいをもちながら、「健康の維持」「社会参加」「福祉の増進」に繋がるシルバー人材センターの果たす役割は重要であり、特に急増する65歳に達した団塊の世代を中心とするホワイトカラー層が活躍できる「場」となるために、「会員拡大」とともに「就業の開拓」を積極的に取り組んでまいります。

2. 事業目標

事業目標を次のとおり設定し、計画的に事業を推進する。

- | | |
|------------|-----------|
| (1) 会員数 | 350人 |
| (2) 粗入会率 | 2.0% |
| (3) 就業率 | 90.0% |
| (4) 就業延べ人数 | 43,100人 |
| (5) 契約金額 | 173,000千円 |

3. 事業計画

(1) 就業機会の拡充と就業率の向上

役職員・会員による民間企業、一般家庭、地方公共団体等への受注の働きかけを積極的に行い、新規受注開拓を図り、会員に適した就業機会を確保する。

(2) 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業（通称サポート事業）への取り組み

高齢者活用・現役世代雇用サポート事業として育児支援や地域における人手不足分野等の新たな職域拡大に取り組み、女性の社会進出を後押しするとともに団塊の世代の活躍の場を創出する。

(3) 啓発活動の強化

当センターを理解してもらうためチラシの配布やホームページを活用した情報提供等の啓発活動を強化して、就業機会の確保・拡大につなげていく。

また、会員には毎月発行の「事務局だより」に情報を掲載し、常に全会員が情報を共有できるようにする。

(4) 安全・適正就業の徹底

安全・適正就業委員会を定期的開催し、事故撲滅のための検証を行う。また、委員と職員による就業現場の巡回指導を強化し、会員の自覚と責任を啓発するために安全・適正就業強化月間や「作業前チェックリスト」による事前点検の実施及び安全・適正就業の日を設け、安全就業の徹底を図る。

また、「就業義務違反取扱要綱」を制定し、安全保護具の着用を義務付け、遵守できない会員に対しては一定のペナルティを科す等着用の徹底を図る。

(5) 健康管理意識の高揚

市が実施する各種検診を受診するよう働きかけるとともに、親睦会行事の「ゴルフ」や「グランドゴルフ」等サークル活動への積極的参加を推進するなど、自己管理意識の高揚を図る。また、インフルエンザ予防接種を受け易いように当センターで集団予防接種を実施する。

(6) 会員の拡大

健康で働く意欲のある高齢者の入会を促進するために、会員や役職員の口コミによる勧誘活動を積極的に行うとともに、親睦会の活動を通じて啓発・勧誘を実施する。

(7) 会員の技術向上と新規技能者の養成

職種転換による後継者の育成や新入会員に対し、自主研修や実技研修を行い、技術向上・新規技能者の養成に努める。

(8) シルバーカルチャー教室の開室

会員の専門知識を生かし、楽しく学んで趣味の世界を広げるため、独自事業「シルバーカルチャー教室」を随時開催する。

(9) 交通事故防止対策の実施

会員の就業中や就業途上はもとより、日常生活における交通事故を未然に防ぐため、

今年度も「高齢者しあわせドライブ」事業への参加や、事故防止のために黄色いウィンドブレーカーの着用を推進して、事故防止の意識を高める。

(10) 桐生市シルバー人材センターとの交流

隣接する桐生市シルバー人材センターと積極的な情報交換を行い、交流を深める。
また、両互助会組織の交流行事を支援していく。

(11) 社会奉仕活動の推進

10月のシルバーの日に、岩宿博物館、阿左美沼、農林業センター、赤城駅、袈裟丸山登山口等の植え込みの手入れや清掃奉仕活動を実施するなど、積極的に社会奉仕活動を行う。